

# 記憶の哲学の再定位

## 研究会目的

記憶の哲学に関する最新研究の批判的検討

参加者各自の専門領域における「記憶」概念の再検討

現象学・表象研究・現代思想・認知科学を架橋する理論的基盤の模索

公開研究会の実施による学術的対話の創出

## 背景

近年、記憶の哲学をめぐる研究は、分析哲学（記憶の同一性条件・証言記憶）、現象学（時間意識・受動的綜合）、認知科学（予測符号化・構成的記憶）など多領域において急速に展開している。

しかしながら、個別領域間の対話は限定的であり「記憶とは何か」という根本問題は依然として未整理である。

## 参加者の所属

文学研究科 哲学専修

文化動態学専攻

先端総合学術研究科

独立研究者

ほか、一橋大学社会学研究科など

## 実施概要

主にslackを利用

関連研究会の情報共有

論文読み会

公開研究会企画等

個人研究発表

研究会HPに公開研究会の動画の共有リンクを貼っています



## 公開研究会概要

### 第1回公開研究会

#### 『身体化された記憶の条件』

フランス哲学における記憶について

日時：9月17日

会場／オンライン：立命館大学／ハイブリッド

ゲスト

平井靖史慶應大学文学部教授

第一回公開研究会では、フランス哲学における記憶概念の展開をテーマとし、アンリ・ベルクソン、モーリス・メルロ＝ポンティ、ジル・ドゥルーズの三者を中心に議論を行った。

まず、メルロ＝ポンティの記憶論について検討した。メルロ＝ポンティにおいて記憶は、主体の意志的想起として理解されるのではなく、「制度化（institution）」という出来事の凝結過程の中で成立するものとして捉えられる。この観点では、知覚・身体経験・知識の関係が主体の意図を超えた歴史的過程として理解される必要がある。とりわけ近年、未邦訳の講義録などを中心に研究が活発化していることが紹介された。

続いて、ドゥルーズのプルースト論を手がかりに、記憶概念の再検討を行った。ドゥルーズがコンプレのエピソードを用いて提示した「存在しない記憶」の議論を出発点として、記憶が単なる過去の保存ではなく、記号の解釈過程のなかで生成されるものである可能性が検討された。この議論は、記憶を出来事の再現としてではなく、意味生成の過程として理解する視点を提示するものである。

さらに、招聘ゲストとして平井靖史氏を招き、ベルクソンの記憶概念について講演が行われた。ベルクソン哲学において記憶は時間経験の中心に位置づけられ、個体の生の持続と密接に結びついている。平井氏は、記憶を人間の心理的機能としてのみ理解するのではなく、生物一般の時間的存在様式と関連づけて考察する必要性を提示した。ベルクソンの『物質と記憶』は、過去がどのように保存され、現在の行為へと関与するのかという問題を扱う中心的著作であり、近年は認知科学や人工知能研究との接続の観点からも再評価が進んでいる。

以上の議論を通じて、記憶は単なる過去の保存ではなく、時間・身体・意味生成と結びついた動的過程として理解されるべきであるという共通の問題意識が共有された。

### 第2回公開研究会

#### 『表現された記憶と解釈』

文学・芸術作品における記憶モチーフについて

日時：9月27日

会場／オンライン：／ハイブリッド

ゲスト

福田桃子慶應大学経済学部准教授

第2回公開研究会では、文学・芸術研究の観点から記憶の表象を検討する研究発表と、招聘研究者による講演を行った。

まず、J.M.W.ターナーの絵画《トムソンのアイオロスの堅琴》を題材とし、ターナーが着想を得たジェイムズ・トムソンの詩との関係を手がかりに、視覚芸術における記憶表象の問題が検討された。この発表では、詩的想像力と視覚表現の連関に注目し、芸術作品において記憶がどのように象徴的・感覚的に表象されるのかが分析された。

続いて、招聘ゲストとして慶應義塾大学の福田桃子氏を迎え、マルセル・プルーストの小説における時間と記憶の関係について講演が行われた。講演では、『失われた時を求めて』に登場するいくつかの表現を手がかりに、無意志的記憶の経験がどのように描写されているのかが検討された。特に、感覚的契機によって突如として過去が現在に現前する経験が、プルースト文学における時間経験の核心をなしていることが示された。

さらに、研究発表の後には、文系大学院生を取り巻く研究環境やキャリア形成について参加者による座談会を実施した。研究活動の継続やアカデミア内外での進路のあり方について意見交換が行われ、研究コミュニティ形成の観点からも有意義な議論の場となった。

以上の発表と議論を通じて、第2回研究会では、文学・芸術表現を通じた記憶経験の分析が、哲学的な記憶論を補完する重要な視点を提供することが確認された。